

10



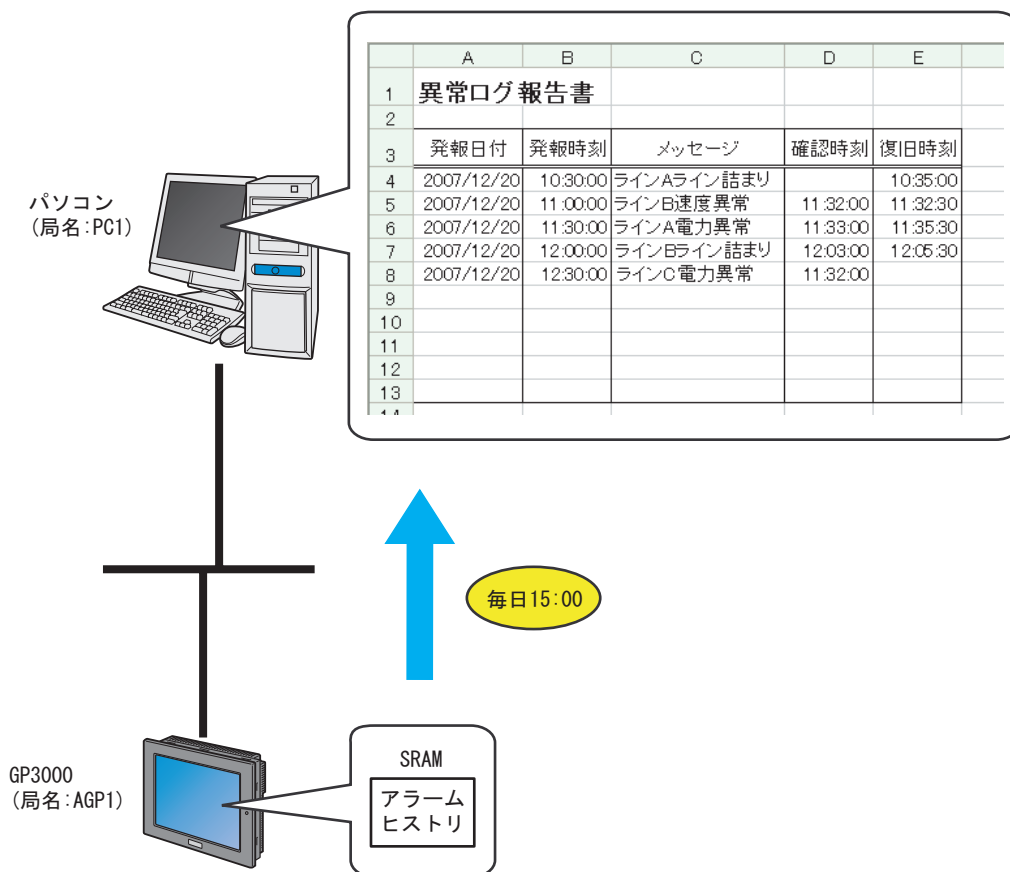
GP のログデータを 読み出したい！

10.1	GP のログデータを読み出してみよう！	10-2
10.2	設定ガイド	10-20

10.1 GP のログデータを読み出してみよう！

【動作例】

GP の SRAM に保存されているアラームログデータを、毎日 15:00 に CSV ファイルへ書き込む



この節では、例として、上記の動作（アクション）を行うための設定を順番に説明します。

MEMO ・ アラームの詳細については、『GP-Pro EX リファレンスマニュアル』をご覧ください。

【設定手順】

1	『Pro-Studio EX』の起動	『Pro-Studio EX』を起動します。
2	参加局の登録	パソコンと GP を参加局として登録します。
3	機能（アクション）のパラメータ設定	アクションの詳細を設定します。
4	起動条件の設定	ログデータを読み出す条件を設定します。
5	アクションが受け取るデータの設定	ログデータを設定します。
6	アクション動作局 / 処理完了通知の設定	アクションの動作局およびアクションが実行されたことの通知の有無を設定します。
7	設定内容の確認	設定内容一覧画面で、設定した内容を確認します。
8	ネットワークプロジェクトファイルの保存	設定した内容をネットワークプロジェクトファイルとして保存し、リロードします。
9	ネットワークプロジェクトファイルの転送	保存したネットワークプロジェクトファイルを GP に転送します。
10	アクションの実行	設定した起動条件が有効になると、GP のログデータが読み込まれることを確認します。

10.1.1 『Pro-Studio EX』の起動

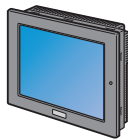
『Pro-Studio EX』を起動します。
起動方法の詳細については、「第 3 章 かる～く Pro-Server EX を体験してみませんか？」をご覧ください。

10.1.2 参加局の登録

ネットワークに接続しているパソコンと GP を、参加局として登録します。
参加局の詳細については、「第 31 章 参加局登録について」をご覧ください。



局名 : PC1
IPアドレス : 192.168.0.1



局名 : AGP1
IPアドレス : 192.168.0.100
接続機器情報

設定例

参加局	設定項目	設定内容
パソコン	局名	PC1
	IP アドレス	192.168.0.1
GP	種類	GP3000 シリーズ
	局名	AGP1
	IP アドレス	192.168.0.100

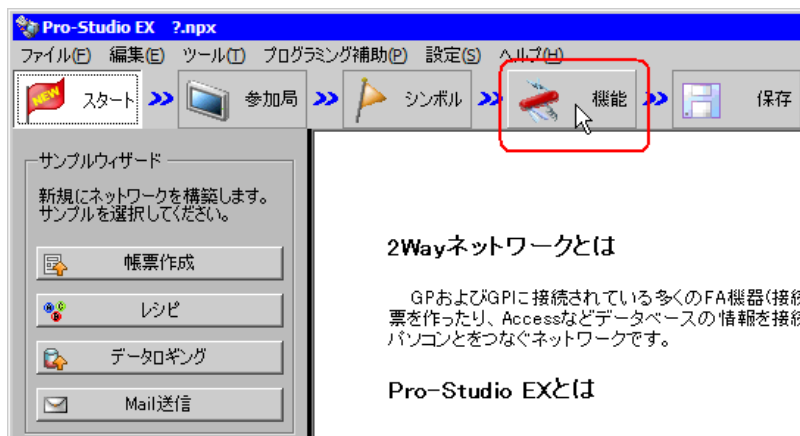
10.1.3 機能（アクション）のパラメータ設定

データを CSV 形式のファイルに書き込むための設定（パラメータ設定）を行います。
アクションパラメータの詳細については、「10.2 設定ガイド」をご覧ください。

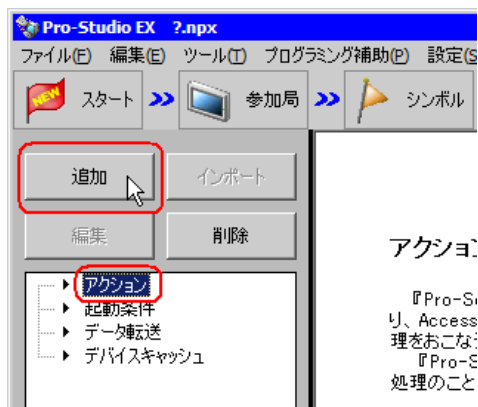
設定例

設定項目	設定内容
アクション名	ログデータアップロード
読み出し元	CF カードのバックアップデータ
GP タイプ	GP3000 シリーズ / WinGP / LT3000
読み出すデータ選択	アラームブロック 1
保存先	デスクトップ
保存ファイル名	GP ログデータ
ゼロサプレス	適用する
保存方法	データ追加
既にデータが開かれている時	処理を終了
保存形式	CSV 形式

- 1 状態バーの [機能] アイコンをクリックします。

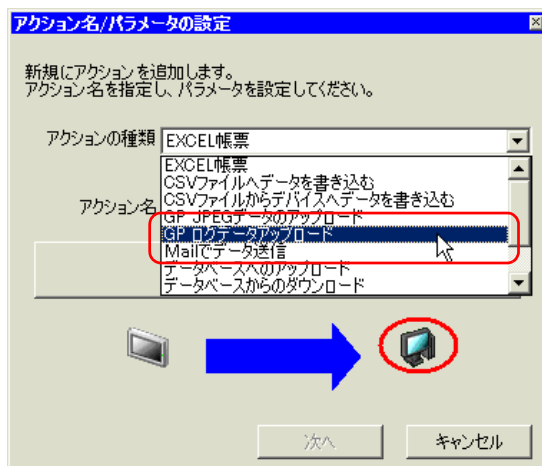


2 画面左のツリー表示から、[アクション] を選択し、[追加] ボタンをクリックします。

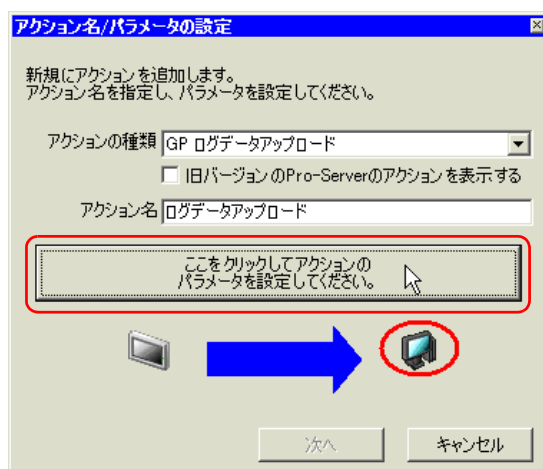


3 [アクションの種類] のリストボタンをクリックし、「GP ログデータアップロード」を選択します。
続いて、[アクション名] に設定するアクション名「ログデータアップロード」を入力します。

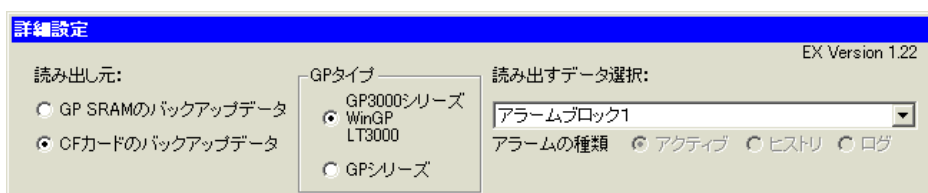
MEMO ・ [アクション名] には、任意のアクション名を設定できます。



4 [ここをクリックしてアクションのパラメータを設定してください。] ボタンをクリックします。

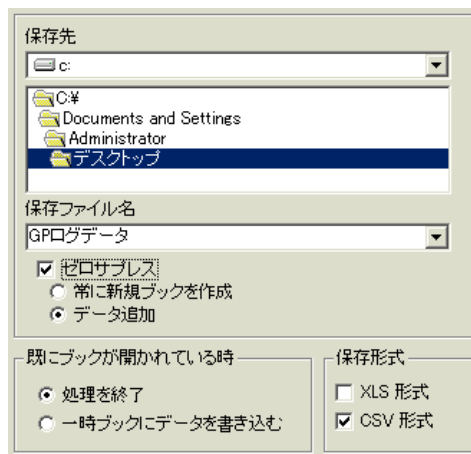


5 読み出しに関する設定を行います。



設定項目	設定内容
読み出し元	[CF カードのバックアップデータ] をチェック
GP タイプ	[GP3000 シリーズ /WinGP/LT3000] をチェック
読み出すデータ選択	[アラームブロック 1] を選択

6 保存に関する設定を行います。



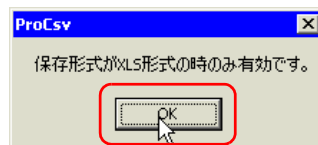
設定項目	設定内容
保存先	デスクトップ
保存ファイル名	[GP ログデータ] を入力
ゼロサプレス	チェック
データ追加	チェック
既にデータが開かれている時	[処理を終了] をチェック
保存形式	[CSV 形式] のみをチェック

%Y%M%D%h%m%s とは

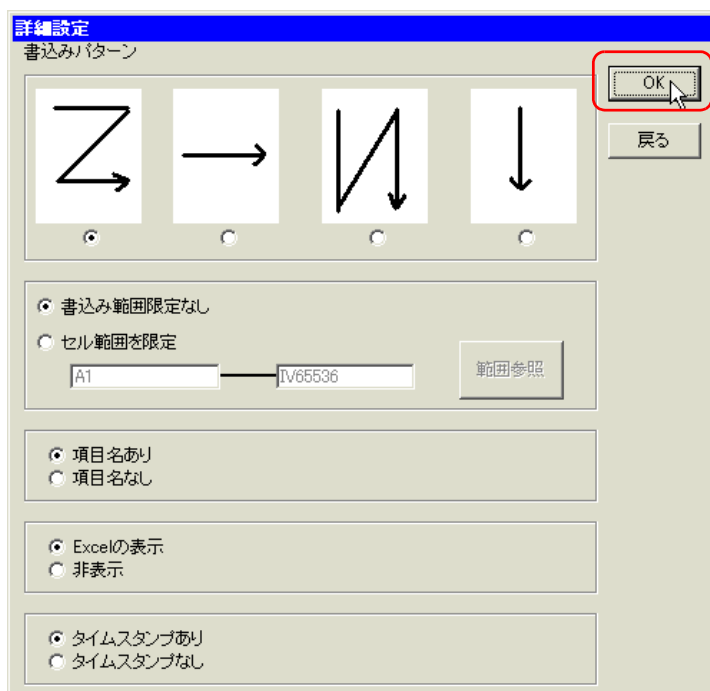
データが書き込まれた時刻「年_月_日_時分秒」の書式でファイル名を作成します。
 (例) 2007 年 12 月 15 日 9 時 50 分 15 秒にデータが書き込まれたファイル名は、
 「2007_12_15_095015」となります。

詳細については、「37.1 名前の制限事項」をご覧ください。

7 [OK] ボタンをクリックします。



8 何も設定せずに [OK] ボタンをクリックします。



MEMO ・ この画面は、Excel 形式で読み込む場合のみ設定する画面です。

以上で、機能（アクション）の設定は終了です。

10.1.4 起動条件の設定

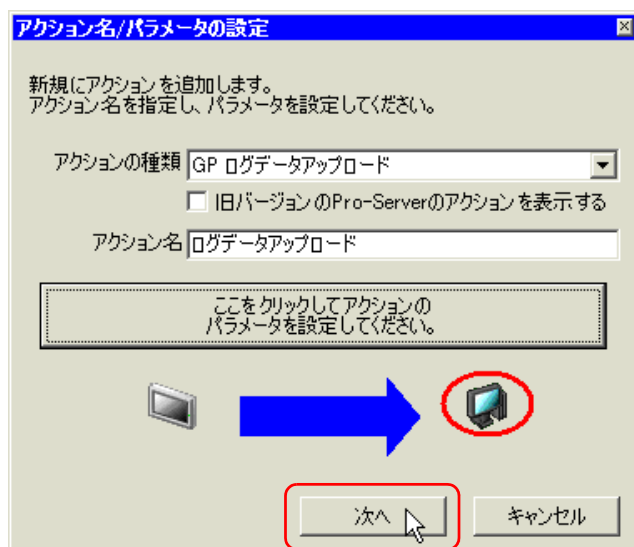
デバイスデータを読み出す起動条件を設定します。

起動条件の詳細については、「第 33 章 起動条件について」をご覧ください。

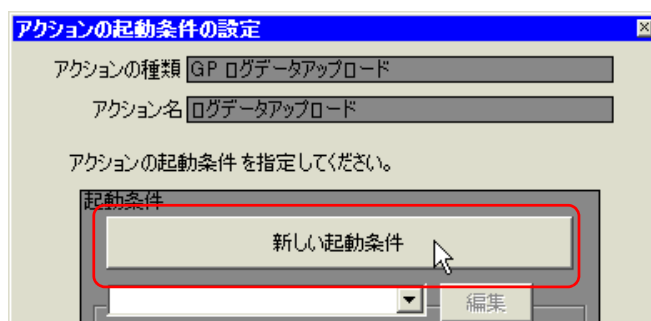
設定例

- ・ 起動条件名 : 定時に収集する
- ・ 起動条件 : 毎日 15:00

1 「アクション名 / パラメータの設定」画面で、[次へ] ボタンをクリックします。



2 [新しい起動条件] ボタンをクリックします。



- 3 [起動条件名] に、起動条件名「定時に収集する」を入力し、[局名] に、データ転送元局となる局名「AGP1」を選択します。

MEMO ・ ここで設定する局名は、起動条件となるデバイスを持つ参加局または転送するデータを持つ参加局を指定します。

☞「第 33 章 起動条件について」

- 4 [条件 1] タブの [指定時刻] ボタンをクリックし、指定時刻「15:00」を設定して [OK] ボタンをクリックします。

MEMO ・ 起動条件については、2 種類の異なる条件の組み合わせ（「かつ」(and 条件)、「または」(or 条件)）により設定することもできます。

☞「第 33 章 起動条件について」

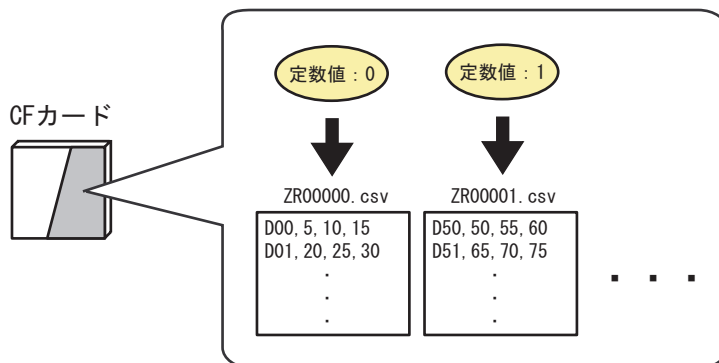
以上で、起動条件の設定は終了です。

10.1.5 アクションが受け取るデータの設定

アクション動作時に転送するデータを設定します。

MEMO

- データの読み出し元が CF カードまたは FEPROM の場合、ここで設定する転送データが CF カードまたは FEPROM のファイル番号となります。ファイル番号は、「ZR*****.csv」の ***** の番号に該当します。

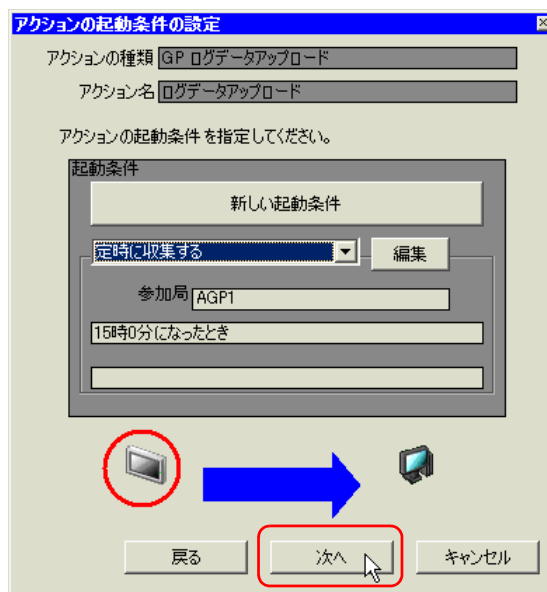


読み出し元がバックアップ SRAM の場合、転送データはどんな値でも構いません。

設定例

- 転送する定数値 : 1

1 「アクションの起動条件の設定」画面で、[次へ] ボタンをクリックします。



2 [定数値] をクリックしたあと、テキストボックスに転送する定数値「1」、[個数] に「1」を入力します。

アクションが受け取るデータの設定

アクションの種類 GP ログデータアップロード

アクション名 GPデータアップロード

このアクションは起動局から
ファイル番号

をデータとして受け取り動作します。データ値には起動局のデバイス値が定数
を利用できます。データを指定してください。

転送元

参加局
AGP1

機器名
#INTERNAL

デバイスアドレス

☒ 定数値

1

データタイプ 16ビット(符号付き) 個数 1

戻る 次へ キャンセル

MEMO ・ シンボルやデバイスアドレスを指定し、格納されている値を転送データとすることもできます。

以上で、アクションが受け取るデータの設定が終了しました。

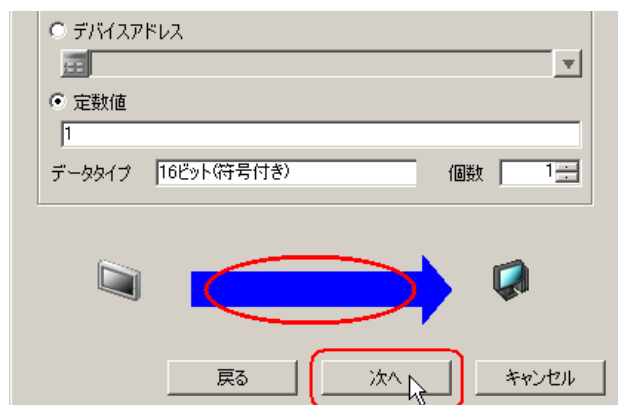
10.1.6 アクション動作局 / 処理完了通知の設定

アクションが動作する局名、およびアクションが実行されたことの通知の有無を設定します。

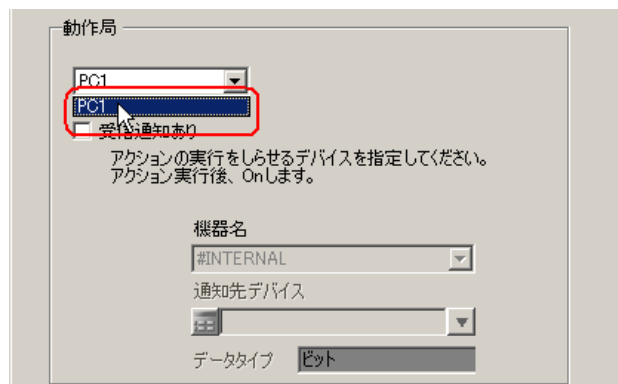
設定例

- 動作局 : PC1
- 受信通知 : なし

1 「アクションが受け取るデータの設定」画面で、[次へ] ボタンをクリックします。



2 [動作局] のリストボタンをクリックし、アクションが動作する局名「PC1」を選択し、[受信通知あり] がチェックされている場合は、チェックを外します。



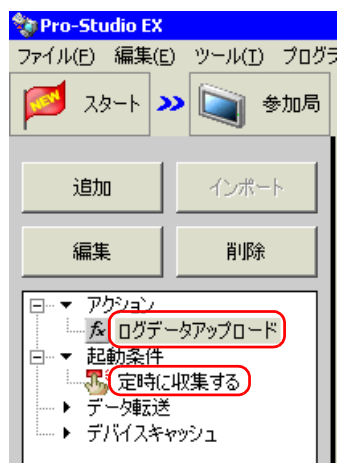
MEMO

- 「受信通知」を設定すると、アクション完了後に、指定したビットデバイスが ON になります。2 つ以上のアクションを連続して実行する場合、次のアクションの起動条件として使用することができます。

☞ 「第 33 章 起動条件について」

3 [完了] ボタンをクリックします。

「アクション動作局 / 処理完了通知設定」画面が閉じ、画面左に、設定したアクション名および起動条件名が表示されます。

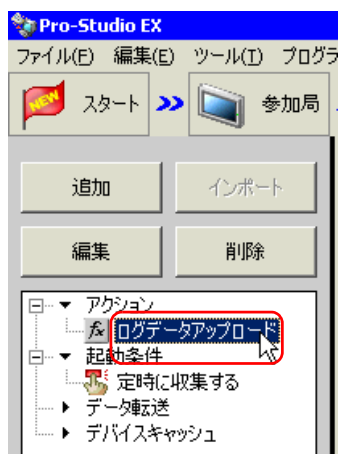


以上で、アクション動作局および処理完了通知の設定が終了しました。

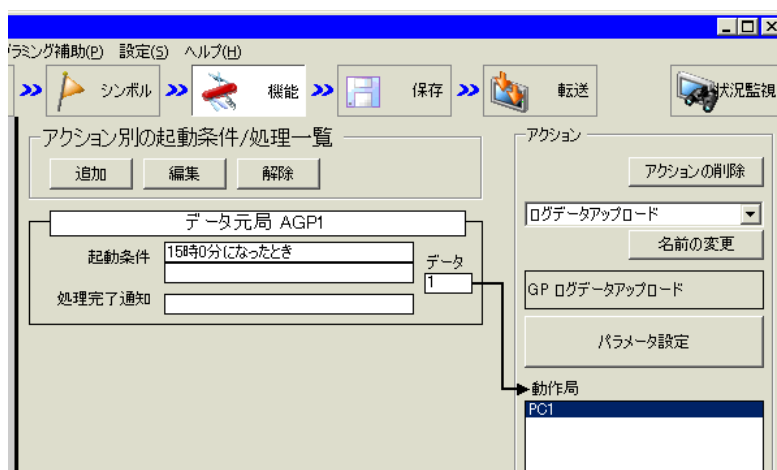
10.1.7 設定内容の確認

設定内容の一覧画面で、設定した内容を確認します。

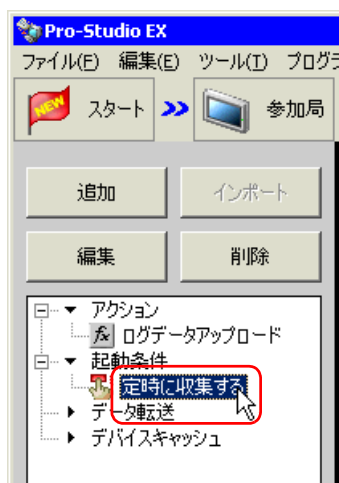
- 1 画面左のツリー表示から、アクション名「ログデータアップロード」をクリックします。



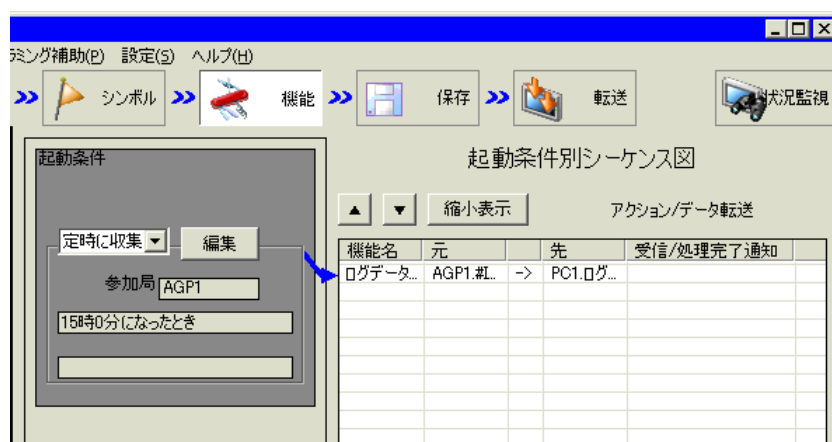
設定した内容が、画面右に表示されていることを確認します。



2 画面左のツリー表示から、起動条件名「定時に収集する」をクリックします。



設定した内容が、画面右に表示されていることを確認します。



以上で、設定内容の確認が終了しました。

10.1.8 ネットワークプロジェクトファイルの保存

設定した内容を、ネットワークプロジェクトファイルとして保存し、『Pro-Server EX』にリロードします。

ネットワークプロジェクトファイルの保存については、「第 25 章 保存について」をご覧ください。

重 要

- 『Pro-Server EX』は、ネットワークプロジェクトファイルを読み込み、そこに設定された内容によりアクションを実行します。したがって、設定した内容は必ずネットワークプロジェクトファイルとして保存する必要があります。
 - ネットワークプロジェクトファイルの『Pro-Server EX』へのリロードは必ず行ってください。リロードを行わないとアクションが動作しません。
-

設定例

- ネットワークプロジェクトファイルのパス : デスクトップ¥gplog_update.npx
- タイトル : GP ログデータアップロード

10.1.9 ネットワークプロジェクトファイルの転送

保存したネットワークプロジェクトファイルを、『Pro-Server EX』にロードし、参加局に転送します。

ネットワークプロジェクトファイルの転送については、「第 26 章 転送について」をご覧ください。

MEMO

- ネットワークプロジェクトファイルの転送は、必ず行ってください。転送を行わないとアクションが動作しません。
-

10.1.10 アクションの実行

起動条件が有効になった時点で、アクションが動作して Excel ブック（ファイル名：「GP ログデータ.xls」）が開き、GP のログデータが書き込まれることを確認します。

	A	B	C	D	E	F
1	異常ログ報告書					
2						
3	発報日付	発報時刻	メッセージ	確認時刻	復旧時刻	
4	2007/12/20	10:30:00	ラインAライン詰まり		10:35:00	
5	2007/12/20	11:00:00	ラインB速度異常	11:32:00	11:32:30	
6	2007/12/20	11:30:00	ラインA電力異常	11:33:00	11:35:30	
7	2007/12/20	12:00:00	ラインBライン詰まり	12:03:00	12:05:30	
8	2007/12/20	12:30:00	ラインC電力異常	11:32:00		
9						

MEMO ・ エラーが発生した場合、ログビューアでログを確認することができます。詳細については、「28.5 システム稼動ログが見たい！」をご覧ください。

以上で、このアクションの説明は終了です。

10.2 設定ガイド

この節では、アクションのパラメータのくわしい設定のしかたについて説明します。

■ 詳細設定

設定項目	設定内容
読み出し元	読み出し元を SRAM または CF カードから選択してください。
GP タイプ	読み出し元となる GP のタイプを選択してください。
読み出すデータ選択	読み出すデータを選択してください。以下のデータが読み出せます。 - GP シリーズ局の場合 - ロギングデータ - 折れ線データ - サンプリングデータ - アラーム履歴データ - アラームログデータ - アラームブロック 1 - アラームブロック 2 - アラームブロック 3 - アラームブロック 4 - アラームブロック 5 - アラームブロック 6 - アラームブロック 7 - アラームブロック 8

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
読み出すデータ選択	- GP3000 シリーズ局の場合 - アラームブロック 1 - アラームブロック 2 - アラームブロック 3 - アラームブロック 4 - アラームブロック 5 - アラームブロック 6 - アラームブロック 7 - アラームブロック 8 - サンプリングデータ 各項目の詳細については、GP の取扱説明書をご覧ください。
保存先	保存先フォルダを指定します。
保存ファイル名	保存ファイル名を指定します。初期値には、%Y%M%D%h%m%s (年月日時分秒) が設定されています。ファイル名を間接指定することができます。詳細は「37.1 名前の制限事項」を参照してください。
ゼロサプレス	チェックありの場合、保存フォルダ名に %M%D%h%m%s (月日時分秒) のいずれかが含まれている場合でも、保存ファイル名に「0」を補いません。 チェック無しの場合、保存フォルダ名に %M%D%h%m%s (月日時分秒) のいずれかが含まれていて、数値が 1 桁の場合のみ、保存ファイル名に「0」を補います。 初期値は「チェックあり」です。
保存方法	保存方法を以下から選択します。 - 常に新規ブックを作成 - データ追加 保存ファイル名を固定名で指定した場合、Sheet2 に書き込まれます。
既にブックが開かれている時	データ書き出し時に同じファイル名のブックが開かれている場合に選択します。処理内容を [処理を終了] または [一時ブックにデータを書き込む] から選びます。 [処理を終了] を指定した場合は、書き出されたデータは保存されずに破棄されます。[一時ブックにデータを書き込む] を指定した場合は、書き出されたデータは一時的に別名で保存 (ファイル名は %Y%M%D%h%m%s.xls となります) されます。
保存形式	Excel ファイル形式 (.xls) とテキストファイル形式 (.csv) があります。両方のファイル形式を選択することもできますので、その場合はそれぞれの形式のファイルが作成されます。
テンプレート情報	テンプレートのあり・なしを指定します。 テンプレートありを指定した場合は、テンプレートのドライブ・フォルダ及びテンプレートファイル名を指定してください。 MEMO - 指定するテンプレートファイルには、Sheet1 のみが存在するようにしてください。 - 読み出し元に CF カードを指定するときに、アップロードするファイルの No. を指定する必要があります。

■ 詳細設定（書込み設定）

設定項目	設定内容
書込みパターン	読み込んだデータの書込み方向を設定します。
書込み範囲	[書込み範囲限定なし] または [セル範囲を限定] から選択します。 [セル範囲を限定] を選択した場合、データを書込むセルの範囲を設定してください。
項目名	[項目名あり] または [項目名なし] から選択します。[項目名あり] を選択すると、ログデータの項目名が記入されます。
Excel 表示	[Excel の表示] または [非表示] から選択します。
タイムスタンプ	[タイムスタンプあり] または [タイムスタンプなし] から選択します。 [タイムスタンプあり] を選択すると、データを書き込んだ時刻が記入されます。

MEMO ・ CSV 形式では指定はできません。書込みパターン Z 軸、書込み範囲限定なし、項目名なし、タイムスタンプなしの固定になります。